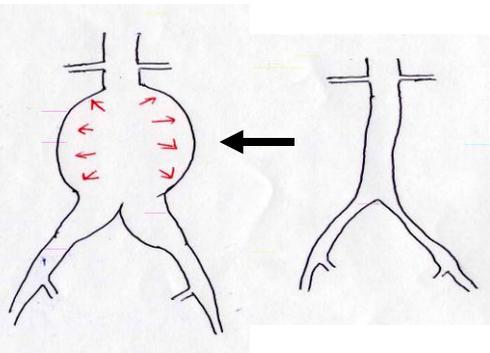


腹部大動脈瘤について

腹部大動脈瘤とはおへそのあたりにある大動脈が太くなり、「こぶ」ができる病気です。風船のように腫れることにより壁が薄くなってしまう、最後には動脈瘤は破裂してしまいます。動脈瘤が破裂してしまうと、短時間で死亡することがあります。



腹部大動脈瘤

正常



切除された腹部大動脈瘤

自覚症状は？
殆どの場合は自覚症状がなく、偶然見つかります。
どんな人が腹部大動脈瘤になりやすいのですか？

- 高血圧。
- 高コレステロール血症。
- 過去に煙草を吸っていた。
- 現在も煙草を吸っている。
- 狭心症や心筋梗塞
- 男性。
- 六十歳以上。

□ 血縁の方が腹部大動脈瘤の病気である。(特に兄弟、姉妹)。
これらのなかで2つ以上あてはまるときは、腹部大動脈瘤がある可能性があります。

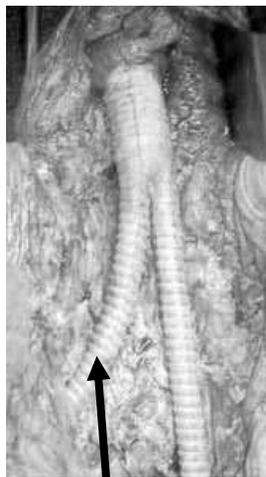
早期発見するためには？

自覚症状はでにくいので、腹部超音波検査や腹部CT検査をお勧めします。簡単に見つけることができます。

治療方法は？

● 降圧療法
血圧が高いと動脈瘤が大きくなり破裂の危険も増します。血圧を下げることは大変重要です。

● 手術
大きくなった腹部大動脈瘤は基本的に手術以外に治療法はありません。
人工血管置換術
「こぶ」になった腹部大動脈を人工血管に交換します。

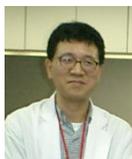


人工血管

ステントグラフト内挿術
開腹する必要がなく負担はかゝるようになりますが、すべての患者様に対して可能ではありません。

破裂する前に治療を！

一般的に、破裂してからの手術死亡率は三十一〜四十%。破裂する前の手術死亡率は一〜二%です。破裂してからの手術はきわめて危険です。破裂する前の早期発見、早期治療が重要です。



岡山赤十字病院 心臓血管外科

中西 浩之

TEL (086)222-8811

ご心配な方は、心臓血管外科外来を受診してください。電話での相談でも結構です。